



平成 28 年度 町長施政方針

町民本位の優しく元気のある 「草の根型」のまちづくりを

平成28年町議会定例会3月会議が、2月24日から3月22日までの28日間にわたり開催

され、初日に高橋昌造町長が町政運営の所信を述べました。

ここでは、町長の平成28年度施政方針（要旨）と予算の概要についてお知らせします。

私は、昨年4月の町長就任以来、町民の皆さまの声や英知を結集し、弱い立場にある方々にも光を当てながら、しがらみのない、町民本位の優しく元気のある「草の根型」のまちづくりを目指し、誠心誠意取り組んでまいりました。

この間、議員各位をはじめ町民の皆さまから多大なご支援ご協力を賜っており、心から感謝を申し上げます。

町内の状況については、本町の大規模プロジェクトである矢幅駅周辺の土地区画整理事業は、平成28年度に工事完了の予定となっております。

さらに、岩手医科大学の総合移転事業では、附属病院本体建設に先駆け「エネルギーセンター」が4月に完成予定となっております。着実に附属病院の移転新築に向け事業が展開されております。また、隣接では県の

療育センターや盛岡となん支援学校の移転新築工事が始まり、早期完成が期待されているところであります。

平成25年8月9日の大雨洪水に伴う復旧状況ではありますが、町道南昌山線、水辺の里およびマレットゴルフ場を残し復旧工事が完了しております。

4月の開通を目指し事業を行ってまいります。また、県事業であります岩崎川につきましては、芋沢川合流点から県道不動盛岡線までの区間について、順次工事が進められており、岩崎川橋につきましても6月の完成をめどに工事が進められているところであります。

スポーツ・文化面では、本町の将来を担う力が大いに活躍し、特に矢巾中学校男子ハンドボール部が全国中学校体育大会において準優勝するなど、輝かしい成果を残した192

人の児童、生徒に対し、その榮譽をたたえております。

新たな第一歩を踏み出す第7次矢巾町総合計画の初年度である平成28年度は、総合計画の基本理念である「希望と誇りと活力にあふれ躍動するまちやば」の実現のため、新たに定住する人や産業の進出を本町のこれからの成長の糧としつつ、着実に行政運営を遂行してまいります。

平成28年度当初予算の概要について、第7次矢巾町総合計画の施策の大綱であります。まちの将来像の実現に向けた7つのまちづくりの方針に沿って、主要な事業に関し具体的な取り組みや直面する課題について、ご説明申し上げます（左ページ参照）。

平成28年度は、第7次矢巾町総合計画の初年度となることから、町民憲章に掲げる「和」といったりと希望

の町」の実現を目指し、「ひとを豊かに育み見守るまち」、「自然とひとが共生するまち」、「持続的な力を蓄え活力あるまち」、「みんなで作る協働のまち」をまちの将来像として、各種計画が確実に実行できるよう鋭意取り組んでまいります。また、先人から受け継いだ「ふるさとやば」の自然、歴史、文化を守り育て、矢巾の良さをさらに磨き、創意工夫を凝らし、元気で個性のある住みよいまちづくりを進めてまいります。

今後も職員とスクラムを組んで地域課題の掘り起こしを行い、迅速に具体策を示すとともに、パブリックコメント、さらには出前型の「町長とまちづくりについて語る会」なども取り入れ、広くご意見をお聞きしながら町政を進めてまいりますので、皆さまのなご一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 28 年度 施政方針の主な施策

① 健やかな生活を守るまちづくり

■健康づくり…「健康やはば 21（第2次）計画」に基づき、「がん対策」を始め生活習慣病対策の各種健康づくり施策を着実に推進します。「塩彩プロジェクト」において「頑張る減塩から気軽な減塩」をスローガンに開発した減塩食品の取り組みを、各専門機関と連携しながら一層推進します。

■高齢者の健康づくり・介護予防…高齢者が住み慣れた地域で安心した生活を送ることができるよう、認知症対策および在宅医療、介護予防、住まい、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に取り組みます。

■児童福祉の充実・少子化対策…新たに矢巾町活動交流センターに子育て世代活動支援センターを設置し、保護者の育児不安を緩和するとともに、地域の中で子どもが健やかに育成できる環境整備を進めます。特定不妊治療費助成事業の拡充を図り、不妊に悩む方々への支援を充実します。子どもの医療費助成について、新たな事業として助成の枠を拡大し、子育て世代の負担軽減を図ります。

② 時代を拓き次代につながるひとづくり

■学校教育…4月に策定する「矢巾町教育振興基本計画」により、本町教育の方向性や重点的に取り組む施策を共有し、町と教育委員会の一層の連携強化を図ります。また、いじめの問題について、教育施策の中でさまざまな取り組みを行うほか、「矢巾町いじめ防止条例」を策定し、町を挙げていじめの無い学校や社会を作り上げていきます。

■社会教育…矢巾町活動交流センターに新設される図書センターについて、図書やイベントのさらなる充実を努め、利用者の増加を図ります。

■第71回国民体育大会…本町で開催されるデモンストラーションスポーツのさらなる普及、推進を図り、大会運営に万全を期すとともに、県民運動への積極的な参加を促し、大会の開催に向けた機運の醸成に努めます。

③ 利便性と発展性を高めるまちづくり

■市街地整備…矢幅駅前地区について、平成28年度の工事完了を目指して整備を進めます。また、4月に供用開始する矢巾町活動交流センターを拠点として各種イベントを開催し、中心市街地の活性化とにぎわい創出に努めます。

■幹線道路網の整備…平成31年の岩手医科大学附属病院開院にあわせて、同大学に接する町道中央1号線の拡幅計画を進めるほか、徳田橋の架け替えの早期完成に向けて、引き続き要望活動を展開します。また、「矢巾スマートインターチェンジ」については、この春から本格的な工事に着手されることから、あわせて周辺道路の整備を進めます。さらに、スマートインターチェンジ周辺の土地利用規制について、見直しを図るため関係機関と協議を続けます。

④ 快適性と安全性を高めるまちづくり

■空き家対策…危険なまま放置された空き家の迅速な撤去や周辺への被害防止を実施する仕組みを検討します。

■移住・定住促進…町独自の地方創生事業の一つとして、町内に定住を希望する方の住宅取得に係る利子補給を実施

し、移住・定住化の促進につなげます。

■防災への取り組み…常備消防の充実と消防団の活性化および消防団員の確保、機能別消防団員の増員により安全対策の充実を努めるとともに、さらなる防災体制の強化・充実を図るために事業者との協定を推進します。また、共助組織として自主防災組織をすべての自治会で組織し、地域ぐるみの防災体制と防災意識の高揚を図ります。

⑤ 産業の活力を高めるまちづくり

■農業の振興…本町農業の持続と特色ある発展を目指し「やはば集落営農応援事業」や「農業担い手支援事業」などに取り組みます。町産ブランドとして期待が高まるズッキーニの生産技術の向上に取り組みながら、付加価値の高い商品の導入や複合経営の推進を図ることにより、消費者の目線に立った安全で安心な農産物の生産とその情報の発信に努めます。また、6次産業化の推進に向けた専門研修の開催、農商工連携による特産品メニューの開催、販売促進と普及に向けた取り組みを推進します。

■商工業の振興…町商工会など関係機関との連携を図りつつ、中心市街地の活性化とにぎわい創出に向けて、医療や介護、健康増進などのヘルスケアビジネスなど新たな産業の創出や、町内小売業者の活性化を支援するウェルネスタウン事業の取り組みを進めます。また、「矢巾町まち・ひと・しごと創生総合戦略」により、大消費地である盛岡市に隣接している立地条件を活かした企業誘致や起業促進を行い、安定的な雇用の確保と地域経済の活性化に取り組みます。

■企業誘致の推進…矢巾スマートインターチェンジの新設による地理的優位性を活かし、新たな企業立地用地確保の検討を進めます。また、首都圏との交流を通じた企業情報の収集に努め、誘致活動に取り組みます。

■観光の推進…徳丹城跡から矢巾温泉郷へつながる、東から西への観光導線を描くよう、南昌山をメインとした観光振興を進めるとともに、水辺の里やマレットゴルフ場も順次整備を進めます。また、国体の開催年であることから、盛岡広域市町で構成する観光推進協議会へ積極的に参加して本町の観光PRを行い、誘客促進に努めます。

⑥ 豊かな生活環境を守るまちづくり

■循環型社会の形成…省資源、省エネルギー、ゼロエミッション、3R運動など、地域特性にあわせた循環型社会の形成に向けた取り組みを推進します。

■し尿処理施設整備…紫波、稗貫衛生処理組合が平成31年3月をもって解散することから、今後は紫波町と施設の整備に向けて計画の策定など連携を深めます。

⑦ 安心と信頼が寄せられる行政経営

■住民協働のまちづくり…町民の皆さまのニーズを踏まえた行政運営を行うため、町民と行政が一体となった企画立案による各種施策を推進します。

■広域連携の推進…盛岡市と締結した「連携中枢都市圏の形成に係る連携協約」により、盛岡広域圏における連携を強化し、経済成長のけん引、高次の都市機能の集積・強化および生活関連サービスの向上を図ります。